

授業者

H R T 佐藤 秀樹

A L T デボラ 増井

4 年 2 組 教室

## 1 単元名 NUMBERS

## 2 授業構成

## ( 1 ) 教師と教材

本校の英会話は、「無理なく・楽しく・繰り返し」を大切にしており、聞く・話す活動を中心に学習を構成している。従って、各単元についても「活動」からのアプローチによる授業構成を行い、毎時間の学習には、前回までに学んだことが含まれるようにしている。4 年生の英会話については、家族・友達・数字・動きを表す言葉をターゲットとして学習を構成している。本単元「Numbers」は、数字だけを単独で扱うのではなく、これまでの学びを生かしながら少しずつレベルアップし、新しい表現と関連させて数字を使うなど、子どもたちが楽しく学ぶ中にも、学びの質が高まるように単元を構成している。子どもたちが生活する中で、数字に関してたずねたり答えたりする場面は多く、初対面の自己紹介でも、家族の人数・年齢など、数字を扱ったものが多い。そこで Personal Information として数字を学ぶ価値があると考えた。さらに本単元では、住所・電話番号など、表現の仕方に特徴があるものも扱っていく。例えば 830 は、eight hundred thirty だが、番地で言う時は eight three zero となるように、日本語と英語での数の表現方法の違いがあることにもふれ、異文化理解につながるようにしている。また、数字には発音の基本要素がつまっていると言われ、正しく発音することで他の単語の発音もよくなると考えられている。そこで、デビー先生の発音を耳だけでなく、表情を含めてとらえられるようにしたい。

本時は、数字に関して複数の活動を取り入れて学習を構成した。また、これまでに動きを表す言葉についても取り入れて学習をしているので、単語だけではなく、文で答えるゲームとした。

## ( 2 ) 子どもと教師

本学級の子どもたちは、年間 20 時間（中学年）の英会話の学習を始めて 2 年目となり、A L T のデビー先生との隔週 1 時間の英会話学習を楽しみにしている。デビー先生とのやりとりは、基本的に英語で行い、コミュニケーション活動の一つとして大切にしている。子どもたちは、デビー先生の説明を聞いて何を伝えようとしているのかを推測し、次の活動をつかんでいけるようになってきた。デビー先生の会話の中から分かる単語を聞き取り、活動と結びつけて口々に「～をするんだあ。」など推測するのも一つの楽しみとしている様子が見取れる。ただし、Introduction など新しい事柄が入る時には H R T が日本語で補足し、安心感も持たせている。英会話の時間は、子どもたちの意欲が継続するように、子どもたちを受け入れ、ほめることを大切にしている。そのため、間違いを気にせずにデビー先生との会話を楽しもうとしている姿も多く見られる。数字については、段階的に数を大きくし、現在は 3 桁の数字を連続して言えるようになっており、自分のことを紹介するために登場する数字(Personal Information)についても、メモを活用して言えるようになってきた。しかし、日常生活の中で英語を活用する場面が少ないのが実態であり、また、隔週での学習ということもあって、学習の始めは英語での音声も出にくい。そのため、徐々にリラックスして話せるような授業構成を心がけている。

本時では、様々な状況に応じて相手に伝えようとする意欲をより高め、その意欲が継続するようにした。特に数字については使う場面を多くし、変化のある繰り返しとしている。

## ( 3 ) 子どもと教材

コミュニケーションは、自分の持っている力でかわりを持とうとすることからはじまるので、自由に発言し、関わろうとする姿を期待したい。どの活動でも、自分と聞き手（ペア・グループ・チー

ムで)を意識できるように活動を構成しているので、デビー先生や友達の話をよく聞き、自分の思いを伝えられるように支援したい。本時では、Number Questions のワークシートを初めて使い、Where do you live ? How old are you ? What's your telephone # ? などの質問づくりをするので、A L T と H R T の会話のやりとりから、たずねる人は何を聞きたいのか考えさせ、絵と結びつけて質問をとらえられるように支援していく。次の時間にはこのシートを利用してクラスの友達へ質問して歩くので、キャラクターの絵を見ることで質問が思い出せるようにしていきたい。また、トランプを使ったカードゲームでは数字に加えて、相手を意識し、かかわり合える場をたくさん設けている。表現方法として Excuse me. No, I'm sorry. You're welcome などの丁寧な言い方を繰り返し使うことを期待している。A L T , H R T が各グループを回って一緒に発音したり、子どもが言えたことをしっかりとほめたりして、くり返すことへの動機づけを行い、自信を持って声が出せるように導いていきたい。最後に行う「動きを表す言葉」では、主体と動作があるので、チームで協力しながら、1つのセンテンスを完成させていくことになる。みんなでかかわる楽しさも味わわせたい。

### 3 単元の目標

- ・使う相手を意識し、様々な場面での会話に取り組むもうとする。
- ・生活の中で使われている数字を使った様々な表現方法に親しむ。
- ・動きを表す言葉を使った様々な表現方法に親しむ。
- ・英語と日本語の言い方の違いや文化の違いを知ろうとする。

### 4 学習計画(全6時間)

- 第1時：Introduction- Number
- 第2時：Where do you live ?
- 第3時：What's your telephone number ?
- 第4時：How tall are you ? Let's see.
- 第5時：Introduction- Number Questions ... (本時)
- 第6時：Class Survey

### 5 本時の学習について

#### (1) 本時の目標

- ・数字を活用した活動を通して様々な数の表現方法に親しみ、それを使おうとする。
- ・動きを表す言葉に親しみ、「誰が」をつけて表現しようとする。

#### (2) 本時の活動

- ・初めの数を変えながら、3桁の数の連続リレー(count on)をする。
- ・ワークシートを用いて Number Question を考え、シートの絵と照らし合わせながら言う。
- ・トランプの数字を使いながら、自分の伝えたい思いを表現する。
- ・動きを表す言葉に主体をつけて表現する。

#### (3) 期待する児童の様相

- ・数字が答えとなる問いかけをこれまでの学習を生かして考える。
- ・自分の伝えたい内容が伝わるように、相手の様子を見ながら話をする。
- ・友達と教え合いながら英語を使ってゲームを楽しもうとする。

#### (4) 本時の展開( 教師の意図 全体への支援 個への支援 )

学 習 活 動	教師の支援・意図
1 . Greeting 教室を移動して、3人の友達とあいさつを交わす。あいさつをし終えたら座る。	自然にあいさつに向かえるようにする。相手に応じたあいさつができるようにうながす。コミュニケーションの場として、同じフレーズでも相手の様子によって合わせていけるよ

Hi. Hi.

How are you?

,thank you. And you? .

↘ (Great / Good / OK / So so) ↗

Bye. Bye.

## 2 . Warm Up ( 3 digit numbers )

班長は、初めの3桁の数を言う。右隣の人は、続きの数字を言って次の人へ送る。

- ・みんなが順にスタート役になるまで繰り返す。

## 3 . Introduction ( Number Questions )

Use Worksheet

ワークシートの絵を見て、ヒントの絵が表す内容が答えとなるような Number Question を考える。

- ・ Where do you live ? or What's your address?
- ・ What's your telephone number ?
- ・ How old are you ?
- ・ When's your birthday?
- ・ How tall are you ?
- ・ How many brothers do you have ?

## 4 . Conversation ( Super Polite language )

トランプを使って Fish Game をする。

Excuse me.

Yes.

May I have a 7 , please ?

Yes. / No , I'm sorry. Please fish.

Thank you. / Thank you.

You're welcome. / You're welcome.

## 5 . Let's try ( Game : Verbs )

友達が黒板にかいた絵の一部をもとに誰が何をしているのか言い当てていく。

- ・絵カードを見て、He is ... / She is ... / It is ... They are ...を練習する。

- ・ What ... doing ?でゲームをする。

指名された児童は、絵を黒板にかき、チームのメンバーは、どんどんヒントを出し合う。

うにする。

言葉だけでなく、身振り、表情なども意識させる。

3桁の数字を言わせて黒板に書き、10個程度あげさせたら、グループでの活動とし、順番にストップをかけていく。

-teen , -ty の言い方で困っている児童には言い方を伝える。

ワークシートの絵を掲示し、HRT と ALT のやりとりを見せる。

これまでの学習で使った Personal Information のメモを見返すようにしたり、ジェスチャーを添えて尋ねる様子を見せたりする。答えの部分は、発話してとらえやすくする。

絵から質問を想起できるようにさせる。

- ・ 4-101 Koyama-Cho Minami Tottori 680-0945
- ・ 0857-31-5171
- ・ 10 ( 10 years old )
- ・ It's December 12.
- ・ 160 c m
- ・ I have three.

フィッシュゲームの中で、丁寧な言葉を使えるようにする。

グループをまわりながら一人ずつ発話できているか確認する。

自分をお願いしたい時の呼びかけ方と相手の求める欲しいトランプがあった場合と無かった場合に応じた答え方ができるようにする。

You're の部分は、言いにくいので、「U」「R」などのアルファベットをイメージさせる。

動きを表す絵をリレー形式でかきつないでいき、分かったところで「誰が、何をしているか」を表現できるようにする。

これまでと違い、He is ... / She is ... / It is ... / They are ...のように動作の主体が加わっていることを知らせる。

動きを表す言葉を思い出せるようにする。

2チームに分け、お互いに協力しながら1つのフレーズを完成する喜びを感じさせる。主体と動作を思い出せるようにする。